

テーマ：『 地域とつながり、校内に自然を増やす働きかけを通じた環境教育』

横浜市立 東品濃小学校

Tel. 045-824-5831

担当者： 高橋徹雄



■実践内容:

横浜市立東品濃小学校では、平成21年度3年生が理科「季節と生き物」の発展的な学習を展開しました。主に総合的な学習で「学校の中庭にもっと生き物を呼ぶにはどうしたらよいか?」というテーマに取り組みました。市内の「舞岡公園」や学校の近くにある「ふれあい樹林」での自然観察で具体的な姿をイメージしながら、呼びたい生き物について各自が考え、調べました。生き物の食べ物やすみか、殖え方等を調べることを通して、どのような環境を作ったらよいか具体的に考え、設計を進めました。バッタや蝶を呼びたいグループは黒土を運び込み、草や花を植えました。トカゲやカナヘビを呼びたいグループは石を組み上げてすみかを作りました。カブトムシやカミキリムシを呼びたいグループは朽ち木や枯れ葉を運び込み、腐葉土コーナーを作りました。真ん中にある池には、「横浜メダカ」を放流しました。

■実践成果:

子ども達は、呼びたい生き物に対して願いをもって活動に取り組むことができました。具体的に生き物の事を調べ、生き物の立場になって設計を考える学習は、環境と生き物の関係を考えるとても有意義な活動になりました。子ども達は、自分が願った生き物を中庭「ひがしな広場」に発見するたびに歓声をあげ、充実感を味わっていました。

■実践ポイント:

子ども達一人ひとりに呼びたい生き物を決める場をもうけ、そこを出発点にして考えたり話し合ったりした事がとても大

切なポイントであったと考えます。子ども達が願いをもったことで、調べたり、創り上げたりする意欲が喚起され、生き物を発見した際の達成感を味わえたと考えている。